

過去問プラス PLUS 社会科学 No.2

国家総合職 2015

難易度 ★

重要度 ★★★



参考項目 社会科学ザ・ベスト プラス #59

問題

欧州連合（EU）に関する記述A～Dのうち妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A EUは、マーストリヒト条約により、欧州共同体（EC）と欧州自由貿易連合（EFTA）とが合併し、経済統合だけではなく、政治統合をも目指して発足したものである。なお、前者は、フランス、ドイツ、スペインが、後者は、英国、オランダ、アイスランドが中心となって設立されたものである。
- B EUは、1999年に共通通貨ユーロを導入し、単一通貨市場を出現させた。また、金融政策についても欧州中央銀行で一元的に決定されることになった。2002年からは、実際にユーロ紙幣や硬貨が流通し、フランスのフランなどは流通を停止したが、2014年現在も、英国ではユーロは導入されていない。
- C EUは、2004年に大統領制の導入などを盛り込んだEU憲法を採択した。同憲法は、フランスやオランダなどの国民投票で可決され発効し、国境を越えた人的・物的交流を大きく進めながら、共通の外交、安全保障、経済及び社会政策を採ることによって軍事的措置によらずに互いの安全保障を確立することなど、主権国家の姿を変える新しい政治の在り方を示した。
- D EUは、発足以来、その加盟国の数を増やしてきている。2004年にはポーランドなど中東欧10カ国が同時に加盟し、また、2013年にはクロアチアが加盟するなど、2014年現在、加盟国は全28カ国となっている。EU未加盟国として、スイス、ノルウェー、トルコなどがある。

1. A, C
2. A, D
3. B, C
4. B, D
5. C, D

解説

- A EUはECを前身として発足した。EFTAは現存する地域的経済統合である。また、設立の際の原加盟国としてEFTAにオランダが数えられている点がおかしいと気づけば、誤肢として判断できる。ベルギー・オランダ・ルクセンブルグ、すなわち「ベネルクス三国」は、フランス・西ドイツ（当時）・イタリアと共にECの原加盟国である。
- B 妥当。
- C EU憲法条約が否決されたということだけを知っていれば斬れる肢である。
- D 妥当。加盟国の状況などは必ず把握しよう。社会科学は時事問題とセットで学習するもの。切り離してはいけない。

過去問プラス^{PLUS} 社会科学 No.2

全体として、問題文は長いが肢の斬りドコロはとても基本的な内容である。

正解 4